

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第四卷 第一號

大正六年一月一日發行

論說

官業問題ニ就キテ(一)……………法學博士 神戸正雄

體質廢頹問題(二)……………法學博士 財部靜治

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(二完)……………法學博士 戸田海市

消費ニ關スル學說ノ發達(一)……………瀧本誠一

經濟心理學ノ組織的研究(二)……………米田庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(二完)……………法學士 河田嗣郎

雜錄

賤民名稱考……………文學博士 新村出

女ニ子ヲ生マス政策……………米田庄太郎

原始亂婚ニ就イテ……………文學士 高田保馬

寶曆ノ豫算……………法學士 本庄榮治郎

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(三完)……………山本美越乃

經濟雜話(七)……………法學博士 田島錦治

戰後ニ對スル二大準備……………法學士 河田嗣郎

新著紹介及ビ寄贈書目

經濟雜誌第七

田島錦治

(十九)君子周急不繼富

(二十)八時間勞働

(二十一)租税ニ關スル語學的歴史的解説

(十九) 君子周レ急不繼レ富

古今同嘆ノ事ハ抄ナカラス論語ニ孔門ノ子華

(公西華ナリ)カ齊國ニ使者トシテ行クニツキ同門

ノ冉子カ子華ノ母ニ粟ヲ與ヘンコトヲ請ヘルニ

孔子ハ之ニ釜(六斗)ヲ與ヘヨト曰ヘリ冉子ハ増

額ヲ請ヒケレハ孔子ハ之ニ庾(十六)ヲ與ヘヨト

曰ヘリ然ルニ冉子ハ遂ニ粟五秉(秉ハ十六斛故ニ五秉ハ八十斛ナリ)

ヲ與ヘタリ(皇侃ノ説ニテハ孔子ノ與ヘタル外ニ冉子ノカ自己ノ粟八十斛ナリ更ニ與ヘタルナリト)

此事ヲ知リテ孔子ハ曰ク赤(子華ノ字)ノ齊ニ適クヤ

肥馬ニ乘リ輕裘ヲ衣タリ吾之ヲ聞ク君子ハ急ナ

ルヲ周シテ富メルヲ繼カスト又或ル時弟子ノ原

思(原憲ナリ)カ孔子ノ宰(孔子カ魯ノ司寇トナリシ時ト家邑ノ宰トナセルナリ)

爲ル孔子ハ之ニ粟九百(九百斗ナ)ヲ與ヘケルニ辭

シタリ孔子ハ曰ク辭スル勿レ以テ爾カ鄰里郷黨

ニ與ヘン乎ト(論語雍也篇)此語ヲ誦スルニ聖賢

カ如何ニ賜與ヲ慎ミタルカヲ知ルヘキナリ此精

神コソ一身一家ヲ脩齊スヘキ廉耻ノ行トナリ之

ヲ推セハ國及ヒ天下ヲ治平スヘキ仁義ノ政即チ

社會政策トナルナリ嗚呼現今ノ世急ヲ周スノ事

ハ往々等閑ニ附セラレ富ヲ繼クノ政ハ多ク行ハ

ル之ヲ小ニシテハ例ヘハ國會議員カ國庫ヨリ歲

費及ヒ旅費ヲ受クルニ拘ハラス更ニ鐵道院カ之

ニ無賃乘車券ヲ給スルカ如キハ富ヲ繼クモノニ

非スヤ又之ヲ大ニシテハ例ヘハ航海及ヒ造船ノ

業ヲ營ム大企業者カ現下ノ時局ニ際シテ莫大ナ

ル巨利ヲ獲ツツアルニモ拘ハラス尙ホ國庫ヨリ

抄ナカラサル獎勵金ヲ受ケテ啻ニ之ヲ辭セサル

ノミナラス之ヲ繼續スルニ勉ム是亦富ヲ繼クモ

ノト謂フ可キナリ其他之ニ類スル例ハ甚ク多カ

ルヘシ實ニ慨嘆ニ堪エサルナリ

(二十) 八時間勞働

歐洲勞働階級ノ最後要求 (the ultimatum) ハ左

ノ有韻文ニ由リテ表明セラルトハヒズをんす

氏ノ説ケル所ナリ (W. S. Jevons, The State in

Relation to Labour, 1st ed. 1882)

“Eight hours to work, eight hours to play;

Eight hours to sleep, and eight shillings a day”.

是レ固ヨリ成年男子ノ労働時間ニ就テノ問題ニシテ其實際ニ一般ニ行ハルルハ歐米ニ於テモ猶ホ前途遼遠ノ感ナキ能ハス但シ少年及ヒ婦女ノ労働ニ就テハ既ニ八時間制ノ實施ヲ見タル所ナカラス例ヘハ米國ニテハ千九百三年いりのいす州カ率先シテ十六歳未満ノ少年ニ對シ八時間労働制ヲ施行シ千九百十五年マテニハありぞな、あーかんさす、かりほるにや、ころらど、ころむびや (District of Columbia)、いりのいす、いんぢあな、あいおわ、かんさす、けんたうきー、まさちゆうせつつ、みねそた、みっしつびー、みつそうり、ねぶらすか、ねわだ、にう・せるしー、にうよるく、北だこた、おはいお、おくらほらま、わしんとん、あすこんしん等ノ諸州モ之ニ倣ヒタリ其餘ノ州ハ半ハ一日九時間ヲ課シ半ハ十時間又ハ以上ヲ課ス成年婦女ノ労働時間ハ概シテ少年ヨリハ長キヲ普通トスレトモ八時間

制ヲ執レル處モ亦無カラス例ヘハかりほるにや・ちすとりにくと・おふ・ころむびや、ころらど、わしんとん、ありぞな等是ナリ而シテ九時間制ヲ執ルハあるかんさす、めーん、みつそうり、ねぶらすか、にう・よーく、てきさす、ゆうた、みねそた、あいだほー、もんたな、おくらほらま等ニシテ其他ノ十九州ハ大抵十時間制ヲ執レリ但シ毎日曜日ノ休日ヲ含ムカ故ニ毎週ノ労働時間ハ八時間制ノ場合ハ四十八時間ヲ原則トシ九時間ノ場合ハ五十四時間ヲ原則トシテ十時間制ノ場合ト雖毎週ノ労働時數ハ最低五十四時ニシテ最高六十時ナリ (Principles of Labor Legislation by John R. Commons and John B. Andrews, New York and London 1916)

今之ヲ以テ我國ノ現状ニ比較スルトキハ我國ノ少年及ヒ婦女労働者カ歐米ノ其等ヨリハ如何ニ遙カニ八時間制ニ隔タレルカラ見ルヘシ明治四十四年三月二十九日法律第四十六號ヲ以テ發布セラレタル我國最始ノ工場法ハ久シク徒法徒文ニ屬シタリシカ漸ク其發布後五年即チ大正五年

六月一日ヨリ始メテ施行スルコトナリタリ其
第三條ニ左ノ規定アリ曰ク

工業主ハ十五歳未滿ノ者及ヒ女子ヲシテ一日
ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得
ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五
年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長
スルコトヲ得

是ニ由テ之ヲ觀レハ我國ノ女工及ヒ少年工ハ大
正二十年五月三十一日ニ至ルマテハ日々十四時
間ノ労働ヲ課セラレ且工場法第七條ニ依レハ雇
主ハ女工少年工ニ對シテ毎月少クトモ二回ノ休
日ヲ與フヘキモノト規定シアリ又休憩時間ハ一
日ノ就業時間カ十時間ヲ超ユル場合ハ少クトモ
一時間トスヘキ旨ヲ規定シアルヲ以テ彼等ノ二
週間ノ労働時間ハ法律上 (14-1) × 13 = 169 即
チ百六十九時間トナリ之ヲ每週ニ直セハ八十四
時間半トナル而シテ更ニ注意ヲ要スルハ第八條
ノ四項ニ「季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工
業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受

ケ其期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル
限リ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得」
トノ規定アルコト是ナリ此規定ヲ極度ニ適用ス
ル雇主ハ女工少年工ニ每週八十六時間半ノ労働
ヲ強フルヲ得ルナリ嗚呼斯ノ如キ長時間ノ労働
ハ歐米ノ成年男工モ亦爲スヲ要セサル所ロ若シ
之ヲ以テ其女工少年工ノ多クニ向テ既ニ適用セ
ラレツツアル八時間割即チ每週四十八時間ノ勞
働ニ比スレハ實ニ霄壤モ亦畜ナラサルナリ然ル
ニ我國ノ工業主ハ往々斯ノ如キ彼等自身ニ都合
宜シカルヘキ工場法ヲ以テ彼等ヲ抑壓スルコト
猶ホ甚シキヲ嗾訴シ而シテ幾萬ノ無知可憐ナル
我國ノ少年婦女ハ固ヨリ歐米先進國ニ於ケル工
場法ノ何タルヲ知ラサルカ故ニ余カ前ニ掲ケタ
ル如キ労働階級ノ最後要求ベ之ヲ夢想スル者ス
ラコレ有ルヲ聞カス嗚呼我工業家ノ多數ハ資本
ヲ節約スルコトハ或ハ之ヲ能クスレトモ労働能
力ヲ節約スルヲ知ラス少年婦女スラ日々十四五
時間使役シテ猶以テ足レリトセス哀ムヘキナリ
余竊カニ思フニ我工業品ノ粗製濫造ノ原因ノ一

ハ實ニ斯ノ如キ勞働ノ虐使ニ在リト世ノ識者以テ何如ト爲ス

(二十一) 租税ニ關スル語學の歴史の解説

米國ノ經濟學及ヒ財政學ノ大家セリぐまん氏ハ嘗テ歐洲諸國ニ於ケル租税ニ關スル語學の歴史的研究ヲ公ニセリ。(Seligman's Essays in Taxation, 1895, page 57) 今之ヲ日本及ヒ支那ニ於ケルモノト對照スルニ頗ル興味アルヲ覺ユ氏ハ語學上ヨリ租税發達ノ順序ヲ左ノ七時期ニ分テリ

第一ノ觀念ハ *gift* 即チ贈リ物ニシテ個人ハ政府ニ贈リ物ヲ爲シタルナリ夫ノ中世拉丁語 *donum* ハ此意味ヲ有シ又英國中世ニ既ニ用キラレタル *beneficence* モ亦同シ

第二ノ時期ハ政府カ人民ニ向テ補助ヲ乞ヒタル時ニ始マル歐洲大陸ニ於テ數百年ニ亘リ使用セラレタル拉丁語 *precarium* ノ意味ハ即チ是ニシテ獨逸語ノ *Bede* モ亦然リ此語ハ *beten* 即チ請フトイフ語ヨリ來レルナリ故ニ獨逸諸邦ニ於テハ近頃マテ *Landbede* ナル語ヲ地租ノ意義ニ用

キタリ

第三ノ時期ハ人民ガ政府ヲ補助セント欲スル思想ノ生シタル時ニシテ即チ人民ハ若シ政府ニ向テ贈リ物ヲ爲スニ非スンハ少クトモ政府ニ向テ好意ヲ運フコトトナリタルナリ拉丁語ノ *auxilium* 英語ノ *aid* 佛語ノ *aide* ハ此思想ヲ表ハセルモノニシテ是等ノ語ハ總テノ種類ノ租税ニ向テ使用セラレタリ此他英語ノ *subsidy*, *contribution* モ亦同義ナリ現今獨逸ニ於テ租税ノ意義ニ用ユル *Steuern* 及ヒ *schenken* 及ヒ *gaben* 等ノ語ハ共ニ元來補助ノ意義ヲ有シタル語ナリ佛國ニ今尙ホ用キラレル *contribution* ハ亦然リ

第四ノ時期ニ至リテ人民カ國ノ利益ノ爲ニ犠牲ヲ供スルノ觀念發達シタリ古昔佛國ニテ用キラレタル *gabelle* 近代獨語ノ *Abgabe* 伊太利語 *fascio* ノ如キハ是ナリ

第五ノ時期ニ至リテ納税者ニ義務ノ觀念發達シタリ之ヲ證スルハ即チ英語ノ *duty* ニシテ此語ハ元來北米衆合國ニ於テハ現今ノ如キ狹隘ナル意味ニ限ラレザリシナリ即チ現今ニ於テハ輸入税

ニ用キラレ又時トシテハ内地消費稅ニ用キラルルナリ (import or customs duty, excise duties) 然レトモ英國ニ於テハ今日ト雖尙ホ最重要ナル直接稅例ヘハ遺產相續稅所得稅 (succession duties, income duties) ニ使用セリ

第六ノ時期ニ至リテ始メテ國家カ強制的ニ租稅ヲ取ルトイフ觀念發達ス英ノ impost, imposition, 佛ノ impôt, 伊ノ imposta 獨ノ Auflage, Aufschlag 等ノ語ハ是ナリ

第七即チ最終ノ時期ニ至リテ政府ハ毫モ納稅者ノ意思ニ關係ナク政府ノ定メ又ハ計算セル割當又ハ賦課トイフ觀念ニ達ス中世ノ英語ノ Scot 獨語ノ Schoss すかんぢなびや語ノ Skatt ハ皆是ナリ又第十九世紀ノ始メノ部分ニ用キラレタル獨語 Schätzung モ亦同シ而シテ現今使用セラルル英語 tax 佛語 taxe 伊語 tassa 英語 rate 等ハ一トシテ計算割當ノ意ヲ有セサルハ無シ茲ニ注意スヘキハ中世ニ於テ tax ナル語カ常ニ整齊ナル計算目錄表 (Schedule) ヲ作リテ取リ立テラレタル直接稅ヲ意味セルト是ナリ

此せりぐまん氏ノ研究ハ固ヨリ各國租稅歷史ニ一々正確ニ適合スヘキモノニ非サルハ蓋シ同氏モ亦認ムル所ナルヘク唯歐洲諸國ニ通シテ概要斯ノ如シト言フニ過キサレナリ今試ニ支那ニ就テ之ヲ見ルニ孟子ニ『夏后氏五十而貢、殷人七十而助、周人百畝而徹、其實皆什一也、徹者徹也助者藉也』トアリ (滕文公篇) 貢ハ「タテマツル」ノ義ニシテ說文ニ獻功ナリト注シ廣韻ニ貢ハ上(タテマツル)ナリトアリ是レ恰モ前掲第一時期ノ donum 及ヒ benevolence ニ該當ス助ハ藉ナリト孟子自カラ註釋ヲ下セリ而シテ趙注ニ由レハ藉ハ借ナリ人カ相互ニ力ヲ借シテ之ヲ助クルカ如シトアリ然ラハ則チ殷ノ助法ハ恰モ前掲第三期ノ aid, aide, subsidy 等ニ該當ス次ニ徹ハ趙注ニ從ヘハ猶ホ人ノ物ヲ徹取スルカ如キナリトアリ取ノ義トシ朱注ハ通ノ義トナセリ即チ通トハ井田法ニ於テ八家カ力ヲ通シテ九百畝ノ田ヲ耕ヤスヲ謂フ故ニ朱注ニ從ヘハ徹ハ contribution ニ近シト雖趙注ニ從ヘハ徹ハ前掲第六時期ノ impost, impôt 等ニ同シト謂フヘシ又

孟子ニ『有^レ布縷之征、粟米之征、力役之征』。君子用^レ其一、緩^レ其二、用^レ其二而民有^レ殍、用^レ其三而父子離^レトアリ(盡心篇)趙注ニ征ハ賦ナリトアリ賦ハ「康熙字典」ニ「唐韻」集韻「韻會」ノ諸書ヲ引用シテ實取ナリト注シ又說文ニハ斂ナリトアリ爾雅釋言ニハ賦ハ量ナリトアリ然ラハ則テ征トイヒ賦トイヒ斂トイフハ前掲第六時期ノ impost, imposition, Auflage 第七時期ノ Schätzung, tax, rate 等ニ該當スルモノト謂フ可キナリ

然レトモ賦ノ字ハ貢ノ字ト共ニ夙ニ尙書禹貢ニ見ユ『厥賦惟上上錯』『厥貢漆絲』等是ナリ蔡注ニハ上ノ取ル所ヲ賦トイヒ下ノ供スル所ヲ貢トイフト釋セリ果シテ然ラハ禹ノ時代ハ必スシモ純然ナル第一時期ニ該當スルモノニ非ス而カモ禹カ土地ノ肥瘠土產ノ差異ニ由リテ貢賦ノ等級ヲ定メタルヲ見ルトキハ當時既ニ第七時期ニ達シタリト謂フモ或ハ誣ヒサルニ似タリ

賦貢二字ノ連用ハ周禮ニ見ユ卽チ同書天官太宰ニ『以^レ八則治^レ都鄙』ノ條下ニ五日賦貢、以^レ馭^レ

其用トアリ更ニ九賦ノ目ヲ擧ケテ邦中之賦、四郊之賦、邦甸之賦、家削之賦、邦縣之賦、邦都ノ賦、關市之賦、山澤之賦、幣餘之賦トナシ九貢ノ目ヲ擧ケテ祀貢、嬪貢、器貢、幣貢、材貢、貨貢、服貢、斄貢、物貢トアセリ周禮ノ時代ニ稅法ノ進歩シタル狀ハ以テ窺知ス可シ

租稅ノ二字連用ハ今日ハ普通ナレトモ支那上古ニ於テハ春秋戰國ヲ通シテ稅斂、征斂、賦斂等カ多ク用キラレ租ノ字ノ用例ハ稀ナル如シ但シ管子ノ立政篇ニ輕^レ稅租^レ、薄^レ賦斂^レノ語アリ租稅歷史上ニ就テ言フ時ハ稅ハ春秋宣公十五年ニ初メテ畝ニ稅ストイフ事ヲ載ス又租ハ史記孝文紀ニ天下ノ民ニ田租ノ半ヲ賜フトアリ說文ニ租ハ田賦ナリ稅ハ租ナリト釋シ廣韻ニ稅ハ斂ナリト釋セリ余思フニ租ノ古義ハ貯蓄ナリ故ニ詩經ニ『予所^レ蓄租』ノ句アリ是カ稅斂ト同義ニ轉化シタル所以ハ古代支那ノ君主カ民ノ收穫ノ一部ヲ儲蓄シテ以テ凶年ニ備ヘタルカ爲ナラン又「長箋」ニ租ヲ注シテ曰ク且ハ古ノ租ノ字ナリ田賦ハ用キテ以テ宗廟ニ給ス故ニ且ニ从フト是レ

至テ趣味深キ說ナリ之ヲ要スルニ民ノ田賦ノ第一ハ以テ祭祀ニ供シ次ハ他ノ國用ニ供シ其餘ハ凶年ニ備ヘタルナリ租稅ノ徵收カ財政ノ目的ノ外ニ社會政策ノ目的ヲ含ムコトハ上古モ亦今日ニ異ナラス然ルニ現時ノ學者例ヘハ獨逸わぐねる氏ノ如キハ社會政策的租稅制度ヲ以テ第十九世紀ノ末期以後歐洲ニ於ケル財政特色ト思考スル如シ是レ恐クハ妥當ノ見解ニ非サルヘキナリ支那ノ租稅歷史上以上列擧セルモノヨリハ晚ク現ハレタルハ、調ナリ「正字通」ニ民賦ヲ調ト曰フ晋カ吳ヲ平ケ戶調ヲ制シタルコト晋書ニ見ユ又唐カ人ニ賦スル制四アリニヲ調ト曰フコト唐書ニ見ユト「玉篇」ニ依レハ調ハ度ナリ求ナリトアリ「增韻」ニ算ナリト注ス然ラハ調ハ前掲第七時期ニ該當スルハ論ヲ竣タサルナリ
 最後ニ我國ニ就テ言ハンニ太古ニおほにへ(大贊)アリ崇神天皇ノ朝ニゆはづのみつぎ(弓畔ノ調)たなすゑのみつぎ(手末ノ貢)アリ此等ハ前掲第一時期ニ該當スルノミナラス當時ノ祭政一致君民一家ノ純朴敦厚ノ趣アルヲ見ルヘシお

ほにへノにへハ新饗「にひあへ」ノ約ニテ新物ヲ神又ハ人ニ饗スルコトトナリ大饗ハ神代ニ於テ新稻ヲ神ニ供シタルニ防マリ後世貢租ノ根源トナリタルナリみつぎハ供給ノ義ニシテ支那ノ貢ト同義ナリ而シテ我中古ニ於テ租稅ヲちからト稱シ田租ヲちからト謂ヘルハ亦支那ノ助ニ似タリト謂フヘシ
 鎌倉時代ヨリ徳川時代ノ末ニ至ル間ニ於テ現出シタル各種ノ租稅ノ名稱タトヘハ役(國役、夫役、倉役、浮役、漁獵役、池沼河海役等)冥加金、運上金等ハ前掲第五時期ノ duty ニ似タルモノト謂フヘキ歟